

第64回 日本伝統工芸展 金沢展



高松宮記念賞《半紗織着物「春の川」》
山下郁子（富山）
—日本伝統工芸展金沢展—

東京国立近代美術館工芸館名品選
陶磁いろいろ

特別陳列 百工比照Ⅱ

■ 加賀蒔絵の世界【古美術】

■ 棚の美【工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】



富本憲吉《色絵金銀彩四弁花文飾壺》
東京国立近代美術館工芸館蔵
—陶磁いろいろ—

1 F 企画展示室

第64回 日本伝統工芸展 金沢展

◆主催／石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、日本工芸会
 ◆後援／富山県教育委員会、福井県教育委員会

10月27日(金)～11月5日(日) 会期中無休 ※最終日(5日)は午後5時まで(入場は午後4時30分まで)



文部科学大臣賞《硝子絹糸紋平鉢「一粟」》
安達征良(千葉)



朝日新聞社賞《透網代花籠「清閑」》
河野祥篁(大分)



日本工芸会奨励賞《蒔絵六角箱「瀑布」》
大角裕二(石川)

我が国は、四季の気候条件に恵まれ、多様な自然環境を形成しています。その中で、各地の風土に根ざした工芸品が生み出され、伝統技術を大切に継承し発展させてきました。本展は、この優れた伝統技術の保護と後継者の育成、ならびに伝統工芸に対する普及を目的として、毎年開催されるものです。

六十四回目となる本年は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・硝子・截金など)の七部門の入選作品六二一点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の作品と、北陸及びその他の地の入選作品を含め、三四八点を展示します。

今回の石川県の入選者は六十七人で、そのうち大角裕二氏(漆芸)が日本工芸会奨励賞を、富山県からは山下郁子氏(染織)が高松宮記念賞をそれぞれ受賞されました。

伝統工芸の最高水準の公募展からは、時を越えて伝えられるべき傑作の数々が毎年輩出されています。この機会にどうぞご鑑賞下さい。

◆展示作品解説

日時	11時～	13時30分～
10月28日(土)	《染織》毎田健治	《陶芸》田島正仁
29日(日)	《金工》大澤光民	講演会
30日(月)	《陶芸》中田一於	《木竹工》林 哲三
31日(火)	《人形》紺谷 力	《陶芸》武腰 潤
11月1日(水)	《染織》二塚長生	《木竹工》川北浩彦
2日(木)		
3日(金・祝)	《木竹工》川北良造	《漆芸》山岸一男
4日(土)	《金工》中川 衛	《漆芸》小森邦衛
5日(日)	《漆芸》中野孝一	金沢美術工芸大学教授 山崎 剛

◆講演会

演題 「金工の世界と私の仕事」

講師 大角幸枝氏

(重要無形文化財「鍛金」保持者)

日時 10月29日(日) 午後1時30分

会場 美術館ホール 《聴講無料》



◆観覧料

	個人	団体(二十名以上)
一 般	六〇〇円	五〇〇円
大 学 生	四〇〇円	三〇〇円
高 校 生 以 下	無 料	無 料

※当館友の会会員は、受付での会員証提示により団体料金になります。

21世紀 鷹峯フォーラム

10月6日(金)～11月26日(日)
会期中無休

「二〇〇年後に残る、工芸のために」のテーマのもと、工芸の過去・現在・未来を考える「21世紀鷹峯フォーラム」が開催しました。江戸初期に芸術家、文化人として活躍した本阿弥光悦は、各種の名人・通人たちが集う芸術村、理想郷をつくらうとしました。そこが京都洛北の「鷹峯」の麓であり、このフォーラム名の由来となりました。二〇一五年より第一回、第二回を京都、東京で開催し、三回目となる本年は、石川・金沢が開催地となりました。

十月六日から十一月二十六日の約二ヶ月間の期

間中、県内各地の美術館・博物館やその他の施設で、関連イベントを開催します。すでに開始以来三週間あまり、多くのイベントが開催されましたが、まだ三分の二以上のイベントや展示を楽しまむことができます。詳細は同封のチラシをご覧ください。この機会に、もつと身近であるはずの工芸について思いを巡らせてみませんか。



開会式

第5展示室 東京国立近代美術館名品展 陶磁いろいろ

◆主催/[東京国立近代美術館工芸館名品展]開催実行委員会、石川県、金沢市、東京国立近代美術館
◆後援/文化庁、北國新聞社

11月11日(土)～12月17日(日) 会期中無休

今年、開館四十周年を迎える東京国立近代美術館工芸館は、二〇二〇年を目標に、石川県へ移転します。これまで工芸館では、明治以降から現代の作家による作品を、約三七〇〇点以上収集してきました。そこで開館に向け、昨年に引き続き、工芸館のコレクション展を、石川県立美術館にて開催いたします。本年度は、「陶磁」分野から、約五十点をご紹介します。

陶土や磁土を焼成する工程から、「やきもの」という言葉で親しまれてきた陶磁。色絵、三彩、金銀彩、瀬戸黒、染付、青磁、白磁、焼締、色や質感を生み出す技法は、並べだしたらキリがありません。また、今日では、茶碗や皿、花器からオブジェまで、形の選択肢も広がりを見せています。本展では、「いろいろ」に表現された陶磁の造形をお楽しみください。

◆ミュージアムコンサート

日時：十二月二日(土) 十三時三〇分～十四時

◆講演会

日時：十二月二日(土) 十四時～十五時三〇分

講師：金子賢治氏(茨城県陶芸美術館長)

演目：「日本の近現代陶芸 ―歴史と鑑賞―」

◆ギャラリートーク

十一月十一日(土) 十四時

十一月十二日(日)・十二月十日(日)・十七日(日) いずれも十一時

◆タッチ&トーク

十一月二十五日(土) 十一時～十二時

工芸館オリジナル鑑賞プログラム。

〈さわってみようコーナー〉と会場トークの二部構成で、

さまざまな角度から展示会のみどころを紹介します。

※当日申込受付・先着十名

※参加費不要ですが観覧券が必要です。



荒川豊蔵 《志野茶碗》
東京国立近代美術館工芸館蔵



初代宮川香山 《色入菖蒲図花瓶》
東京国立近代美術館工芸館蔵

百工比照Ⅱ

11月11日(土)～12月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

「百工比照」という名称や、その内容からフランスのデイドロとダランベルが編集した『百科全書』を連想します。『百科全書』が刊行された目的としては、当時の先進的な学問、思想、技術を集大成し普及することが挙げられますが、その彼方には理性的でより自由な社会を実現するという理想がありました。仁政の実現に向けて様々な政策を打ち出した前田綱紀が、「百工比照」の編集に臨んだ姿勢からも、この『百科全書』の理想に通じるものを感じます。『百科全書』が刊行されたのが一七五一年から七十二年であり、「百工比照」の主要部分の編集が一六八〇年頃から一七〇〇年頃であることを考えると、「知の巨人」前田綱紀の先進性に改めて驚嘆させられます。

特別陳列「百工比照」のⅡ期は、Ⅰ期と同じく以下の内容で展示しますが、第二号箱の収納箱を除きすべての展示場面が替わります。たとえば、第一号箱の紙類や第二号箱の陣羽織等の絵図のような帖形式のものは折り返し、第三号箱の金具類のように重ね形式のものはⅠ期とは別の重が展示されます。

第一号箱：紙類・金色類・木之類・漆類・

皮類・染織類・竹類

第二号箱：陣羽織・武具・紋章類絵図等

第三号箱：金具類

第五号箱：釘隠・引手

第六号箱：七宝釘隠（鳥籠・虫籠・花籠）

これまで、重文《百工比照》を紹介する際には、「金色類」や「蒔絵梨子地塗色類」、「色漆類」、あるいは釘隠の画像が多く用いられてきましたが、今回の展示で改めて注目いただきたいのは「紙類」です。第一号箱の第一架帙は三十折の帖に表六十面、裏

四十九面にわたって紙類が貼付けられており、その産地は加賀をはじめ、越前、越中、美濃、下野、伊豆など全国に及んでいます。「天下の書府」と評されるほど書物の体系的な収集に注力した加賀藩五代藩主・前田綱紀にとって紙は重要な研究課題であり、それは収集と同時に綱紀が熱心に取り組んだ書物の修復や編纂にも深く関わることでした。第一号箱の第五架帙が「外題紙類」となっていることや、今回は展示されませんが《百工比照》第四号箱に掛幅や巻子の軸等が集成されていることも、装潢（まつこう）が広義の工芸と位置付けられていた事実を示しています。石川県立美術館に隣接する石川県文化財保存修復工房では、修復作業を見ることが出来ます。工芸という観点から、改めてこうした作業をご覧いただきたいと思います。

第5展示室 [工芸]

棚の美

11月11日(土)～12月17日(日)

会期中無休

古来より、棚は調度のひとつとして私たちの身の回りをかざり、空間を区切る役割を担ってきました。さらに文物を並べることによって、持ち主の趣味をあらわすことも、重要な役割のひとつでした。当館の近代工芸コレクションには、様々な様式・技法によって制作された棚が収められています。本展示では、松田権六の傑作《蓬萊之棚》や初代池田作美《遠州風彫刻桑材飾棚》はじめ、その一部をご紹介します。木工・漆工・金工の技術を結集してつくられた棚の美を、どうぞお楽しみください。

また、今年七月に逝去された三谷吾一氏ご本人より、新たにパネル《飛翔》を寄贈いただきました。こちらを当館で初めて、展示いたします。

第2展示室 [古美術]

加賀蒔絵の世界

11月11日(土)～12月17日(日) 会期中無休

本展では加賀蒔絵を、江戸時代に加賀藩で形成された様式による蒔絵と位置付けたいと思います。加賀藩三代藩主・前田利常は「文による武」の一環として京都や江戸から名工を招聘し、芸術的な洗練度を追求した制作ができる環境を整備しました。蒔絵の分野では京都から五十嵐道甫、江戸から清水九兵衛が招かれました。八ページでもふれています。道甫は足利將軍家に仕えた蒔絵の名門の出身で、二代にわたり加賀蒔絵の基礎を築きました。道甫は京都の本法寺の檀那として本阿弥家とも姻戚関係があり、さらに法華宗のネットワークから長谷川等伯や俵屋宗達の一門とも関わりがあります。特に道甫に由来する様式として指摘される絵画的な特質には、こうした人的な結び付きが大きな影響を与えていると考えられます。

本展には道甫の代表作である重文《秋野蒔絵硯箱》が展示される予定です。さらに、秋草をモチーフとした道甫周辺の作家による優品も合わせて展示して、道甫の表現世界の精髓をご堪能いただけます。

清水九兵衛は、加賀藩祖・前田利家から四代藩主・前田光高まで代々前田家の呉服御用を務める家に生まれ、四代にあたる九兵衛柳景は幼少より蒔絵を学び、江戸から利常に招かれました。松や波、流水などの緻密な表現に特徴があり、重文《蒔絵和歌の浦図見台》は、九兵衛と伝わる作品の中で最も完成度の高いものです。本展では九兵衛の特質が遺憾なく発揮されている優品を合わせて、加賀蒔絵の源流から江戸時代の展開の様相を概観します。



県文 《蒔絵硯箱》 伝清水九兵衛

第3・4展示室 [近現代絵画・彫刻]

優品選

11月11日(土)～12月17日(日)

会期中無休

前回の優品選で絵画は写実系の作品を中心に展示しましたので、今回は抽象から半具象系の作品をご紹介します。日本画では曲子光男の《流》、松崎十朗の《校庭》、日影圭の《汎》等。曲子の作品は流水という抽象形を丹念に描き、写実と抽象とが渾然一体となっています。洋画では大正十五年生まれの勝本富士雄が石川の抽象作家としては先駆的存在で、円と菱形による組み合わせと清潔な色彩が「あけぼの」を連想させる大作《鋭角から》の円ーRising Sun》、浮世絵の大首絵を連想させる庄田常章の《竜のハナ唄》、そして田井淳《虹の星》等を展示します。

彫刻は木彫を中心に、ユーモラスな田中太郎の《顔》と《会話》、大胆な粗彫りの梶本良衛《ワタシ・今・ナニヲ》等をご覧ください。いずれも各作家の個性が遺憾なく発揮された作品です。どうぞご堪能ください。

第7・8展示室 第102回 公募写真展研展

11月18日(土)～23日(木・祝) 会期中無休

東京写真研究会が主催する研展は、関東、中部、関西、北陸の四支部で構成され、公募展は四支部巡回で開催されています。会員部門と公募部門に分けられていて、今回は三二五点の作品が展示されます。

北陸支部においての入賞者は、会員部門が三名、公募部門は四名となりました。

合評会は十一月十九日(日)午後二時より行います。

◆入場無料

◆連絡先／土田貴夫

金沢市東山二丁目二一八

電話：〇七六一二五一〇七三三

第7・8・9展示室 70周年記念 示現会展巡回金沢展

11月8日(水)～12日(日) 会期中無休

一般社団法人示現会は、本年四月、東京都港区六本木の国立新美術館にて七十周年記念展を開催しました。巡回金沢展では、昨年が続いて本部基本作品五十九点(受賞作品を含む)と地元石川県支部作品三十六点(遺作一点含む)、合計九十五点を展示いたします。示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、(故)大内田茂士、(故)榎原健三の両芸術院会員を輩出しています。一般社団法人示現会石川県支部は、平成二十一年に設立され、多くの方々のご理解と支援のもとに、翌二十二年より巡回金沢展を開催しています。

◆入場料

一般・五〇〇円(十名以上の団体四〇〇円)

六十五歳以上・四〇〇円、大高生・三〇〇円

※障害者手帳をお持ちの方(付添者含む)、中学生以下・無料

◆連絡先／一般社団法人示現会石川県支部

事務局 南外志雄

電話：〇九〇一六八一〇一〇四三六

今秋、東京六本木の国立新美術館で開催された第六十三回一陽展(十月四日(水)～十六日(月))に出品した、一陽会石川支部のメンバー、絵画二十五点、彫刻二点の出品作品を展示します。

一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉励し、新時代の美術を推薦せんとする。尖锐なる未完成こそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力するものである。」

この精神をふまえ、日々研鑽努力し創作してきた渾身作を展示致します。美術愛好家の方々にご高覧いただいで、ご教示いただければ幸いに存じます。

◆入場無料

◆連絡先／一陽会石川支部副支部長 竹田明男

電話：〇七六一二四八一五八九八

第8・9展示室 第27回 石川独立DO展

11月25日(土)～28日(火) 会期中無休

石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、東京国立新美術館で毎年開催されており、今年で八十五回を数えます。自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。

初日には批評会も行い、作家それぞれの作品に対する思いが理解できる機会ともなっていますので、是非ご参加ください。

◆出品予定作家

大部雅子 京岡英樹 桑野幾子 櫻井杏純

進地美穂 田井淳 西又浩二 堀一浩 堀田正人

三浦賢治 伊藤裕貴 乙部久子 桜井節子

◆入場無料

◆連絡先／堀一浩

電話：〇九〇一四三二六一五八四九

第9展示室 2017 一陽会石川支部展

11月18日(水)～23日(木・祝) 会期中無休

企画展 TOPICS 「森羅万象をまとう」

平成30年1月4日(木)～2月12日(月・休) 会期中無休

今年度の新春企画展は「森羅万象をまとう」と題し、石川県ゆかりの二名の重要無形文化財《友禪》保持者、いわゆる人間国宝の木村雨山、二塚長生の仕事を紹介します。日本の染織の中でも、貴族階級などの衣裳として、意匠や技術が高度に発達した織物に対し、染物は一枚の小袖に華やかな模様を染め上げたため、近世庶民の生活を彩るものとして、自由な発達を遂げました。とりわけ友禪染は、染料のにじみを止める米糊を防染に用いて、絵画とほぼ同様の表現が可能となり、加賀や京都などを中心に盛んに行われました。近代までは地域性が表現の違いを生んでいましたが、現代は個々の作家の技術と創意、表現力を駆使し、さらに自由な作品が生まれています。

田端喜八、中村勝馬、上野為二とともに、友禪で最初の重要無形文化財保持者(同時に認定された山田栄一は友禪楊子糊)に認定された木村と、入れ替わるように日本伝統工芸展で頭角を現し、独自の作風を確立した二塚。両者の代表作を一見すると、友禪の技法による作品であっても、表現は全く異なります。共通するのは米糊を細く絞り出した「糸目糊」の線の美しさと躍動感、吟味された色の奥深さです。着物という枠の中に展開する模様ではなく、着物全体が無限の空間に広がるような両者の作品は、生きとし生けるものすべて、森羅万象をまとう着物と言えるのではないか。そのような思いを込めた展覧会の名称です。



木村雨山 《縮緬地友禪訪問着「松」》
日本伝統染織振興会蔵



友禪着物「浜音」二塚長生
式年遷宮記念神宮美術館蔵

一般社団法人二科会写真部石川支部主催の公募展は今回で三十三回を迎えます。今年も県内の一般愛好者各位の応募を多数頂きました。公募展は、第一次審査は公開審査で入選候補作品を選定します。全候補作品が揃ったところで正式に入選を決めます。さらに第二次審査では、支部大賞等入賞作品を選びます。二次は東京から専門誌フォトコン編集長を審査員に迎えています。

公募展は、これらの作品と今年の二科本展入選出品、石川支部無監査出品、二科会友出品、審査員二科会会員出品等およそ、一〇〇点の写真展です。皆様のご高覧を頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

◆入場無料

◆連絡先／一般社団法人二科会写真部石川支部

支部長 土田貴夫

電話：〇七六―二五一―〇七二三

11月の行事予定

■〇才からのファミリ―鑑賞会 電話にて申込、参加無料

「赤ちゃんも作品をみる」という視点から、家族で鑑賞を楽しみます。

講師：富田めぐみ氏(アートフレンドシップ協会代表理事)

11日(土) 午後2時～3時30分

12日(日) 午前10時～11時30分

■土曜講座 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料

18日(土) 白山開山一三〇〇年 村上尚子 学芸員

■百万石の文化講座 午後1時30分～ 美術館ホール 申込不要、聴講無料

19日(日) 演題：「石川のものづくり～百工比照～」
講師：嶋崎 丞(石川県立美術館長)

第7展示室
第33回
二科会写真部石川支部公募展
11月29日(水)～12月3日(日) 会期中無休

石川県指定文化財《住吉絵硯箱》すみよしまきえすずりばこ

縦22.1×横18.6×高3.8(cm) 室町時代16世紀



蓋表中央に鳥居と松、その下方に波と打ち寄せられた貝や岩が配されており、この場所は、摂津の住吉社頭であることがわかります。さらに住吉明神は和歌を守護する神であることから、鳥居の前に大きくあしらわれた蛙は、『古今和歌集』仮名序にある「花になく鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける」を暗示するものと解釈されます。そこにはさらに、「忘れ貝」と合わせて説話など中世文学の様々な影響も認められるようです。

総体黒漆塗に金銀の蒔絵により意匠を構成する手法から、本作は京都の五十嵐派により制作されたものと考えられます。五十嵐家は、信斎が室町幕府八代將軍・足利義政に仕えたと伝えられる京都の蒔絵の名門で、江戸時代にはいり道甫が加賀藩三代藩主・前田利常に招かれ、加賀蒔絵の基礎を築きました。本作の制作年代は室町時代十六世紀と判断されますが、伝存する加賀蒔絵の名品には本作の表現を踏襲したものがいくつか確認されます。その意味で、本作は加賀蒔絵の先駆的作例と位置付けることができます。第二展示室で開催中の「加賀蒔絵の世界」では室町時代と江戸時代、京都と加賀の微妙な美意識の相違もご覧いただきたいと思えます。

次回の展覧会

平成29年12月23日(土・祝)
～平成30年2月5日(月)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
新春優品選		新春優品選
第3・4・6展示室	第5展示室	1F企画展示室
新春優品選／書の魅力 (近現代絵画・彫刻・書)	新春優品選 (近現代工芸)	森羅万象をまとう 平成30年1月4日(木) ～2月12日(月・休)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(11月は7日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

11月8日(水)～10日(金)は、
1階展示室のみ開館

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第409号(毎月発行)
2017年11月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>